

科学する心を育てる保育実践を募集する「ソニー幼児教育支援プログラム」  
全国 94 園の幼稚園・保育所・認定こども園より選ばれた最優秀園

## 研究成果を発表する「最優秀園実践発表会」開催 7月4日(土) 函館美原保育園(北海道)

公開保育・研究発表などを通じ県内外の保育関係者に向けて独自の保育実践を公開

講師：玉川大学教育学部教授 大豆生田 啓友氏

公益財団法人 ソニー教育財団(会長 中鉢良治)は、2014年度「ソニー幼児教育支援プログラム」で「最優秀園」に選ばれた社会福祉法人育星園 函館美原保育園(北海道函館市、園長:松本 啓)にて「最優秀園実践発表会」を開催します。

「ソニー幼児教育支援プログラム」は、乳幼児期の教育研究を推進したソニー創業者 井深大の考えを受け継ぎ、2002年から実施している園への教育助成です。「科学する心を育てる」を主題に、3歳から5歳の保育実践と、その考察に基づく今後の方向性を募集し、これまでに全国の幼稚園・保育所・認定こども園から約1000件の応募、600を超える園が受賞しています。

今回、「最優秀園実践発表会」を行う 函館美原保育園 は、2014年にご応募いただいた94園の中から選出され、本プログラムの審査委員長である小泉 英明氏(株式会社日立製作所 役員待遇フェロー)ら4氏による審査、現地調査を経て「最優秀園」を受賞。子どもたちの「豊かな感性」と「創造性」の芽生えを育む取り組みや成果について、公開保育、研究発表などを通じて先生方を中心とする保育関係者にご紹介いたします。

### 「ソニー幼児教育支援プログラム」最優秀園実践発表会(公開保育・研究発表) 開催概要 函館美原保育園 (北海道函館市)

研究主題： 「科学する心を育てる」子どもの気付き・保育者の援助・考える力

開催日時： 2015年7月4日(土) 9:00~16:30

会場： ■公開保育  
函館美原保育園  
(北海道函館市美原1丁目29-21)  
■研究発表・グループ協議・記念講演  
北海道教育大学附属特別支援学校  
(北海道函館市美原3丁目48-1)

時程： 【公開保育】 9:30~10:45  
【開会式・研究発表】 11:05~12:00  
【グループ協議】 13:00~14:20  
【記念講演】 14:35~16:20

講師： 玉川大学教育学部乳幼児発達学科 教授 大豆生田 啓友氏  
演題「学びに向かう力を育てる乳幼児教育・保育」



- ※ 函館美原保育園からのご案内は「第二次案内」をご覧ください。参加については直接園にご相談ください。  
[http://www.sony-ef.or.jp/sef/program/jissen/pdf/2015/2015\\_mihara\\_02.pdf](http://www.sony-ef.or.jp/sef/program/jissen/pdf/2015/2015_mihara_02.pdf)
- ※ 函館美原保育園の最優秀園論文全文はホームページでお読みいただけます。

## 「ソニー幼児教育支援プログラム」最優秀園 論文

社会福祉法人育星園 函館美原保育園（北海道）

論文テーマ： 科学する心の芽を育てる保育

～保育士の援助と視点について「氷作り」と「種から種へ」より～

論文全文 ([http://www.sony-ef.or.jp/sef/program/result/pdf/2014\\_pre\\_mihara.pdf](http://www.sony-ef.or.jp/sef/program/result/pdf/2014_pre_mihara.pdf))

### 【審査講評】

子どもたちの主体的な取り組みを目指し、子どもの気付きや好奇心・関心などを大切に「科学する心の芽を育てる」保育へと、「見直し・変える」ことに真摯に取り組まれました。寒冷地である特色を活かした「氷作り」では、よく観察し、仮説を立てて追究する力が育まれていることが読み取れます。「種から種へ」は、7か月の継続的な取り組みの中に、環境との関わり方が深まっていく姿がありました。特に、「畑危機一発」では、原因を友達と調べ、方法を探り、乗り越える体験を重ねています。保育の可視化としてのボードフォリオの工夫は、子どもの姿を皆で共有し、園と家庭のつながりを深め、子どもの自信や遊びを豊かにすることに結びつくと共に、保育者の保育の見直しにも繋がりました。「共有・話し合う」ことに重きをおいた環境と援助の工夫が、考えを出し合い、共有し合う人間関係を築き、主題に繋がる活動を支えています。これらの保育の展開と工夫が高く評価されました。

### ■ソニー幼児教育支援プログラムとは

「科学する心を育てる」を主題に、子どもたちの主体的な遊びや生活を大切に「豊かな感性」と「創造性」の芽生えを育むための保育実践と、その考察に基づく今後の方向性をまとめた論文を募集し、実現のための支援を行っています。全国の幼稚園・保育所・認定こども園より、毎年約100園のみなさまにご応募いただいています。審査委員長の小泉英明氏（株式会社日立製作所 役員待遇フェロー）をはじめとする各界の有識者により、予備審査・中間審査を経て、入選候補園に関しては現地調査も行います。入選園は翌年、「最優秀園実践発表会」や「優秀園実践提案研究会」を開催。主題に迫る取り組みの積極的な発信にご協力いただきます。また、論文の中から特色ある事例を選び出し、実践事例集として毎年冊子を発行。事例はホームページからお読みいただくことができ、保育関係者の研修や研究の参考として活用されています。

ソニー幼児教育支援プログラム： <http://www.sony-ef.or.jp/sef/program/guide/preschool.html>

幼児教育 保育実践事例サイト： <http://www.sony-ef.or.jp/sef/preschool/>

### ■ソニー教育財団について

ソニー創業者の井深大は、その設立趣意書の中で「国民科学知識の実際的啓発活動」を目標に掲げています。日本の将来の発展を支える子どもたちが科学に関心を持ち、科学を好きになるには、小・中学校における理科教育が最も重要であると考え、1959年に「ソニー理科教育振興資金」の贈呈事業を始めました。この事業を継続的に発展させるため、1972年に「財団法人 ソニー教育振興財団」を設立。2000年には子どもたちの感性・創造性・主体性の育成を目指した「ソニー子ども科学教育プログラム」へと発展。これまでに延べ11,000校を超える応募があり、教育資金を贈呈するなど、子どもたちの教育に創造的、先駆的な取り組みを行っている全国の小・中学校や先生方を支援してきました。一方で、井深大は「人間の能力は“環境”によって作られる」との考えから、幼児教育の大切さを訴え、1969年に「財団法人 幼児開発協会」を設立し、その研究と実践を推進しました。2001年には2つの財団を統合して「財団法人 ソニー教育財団」を設立。2011年より「公益財団法人 ソニー教育財団」に移行し、今日に至ります。



ソニー創業者 井深大

### <報道関係の問い合わせ先>

公益財団法人 ソニー教育財団 東京都品川区北品川 4-2-1

TEL:03-3442-1005 FAX:03-3442-1035 (担当 山下)

公式ホームページ: <http://www.sony-ef.or.jp/>

公式フェイスブック: <https://www.facebook.com/SonyEducationFoundation>